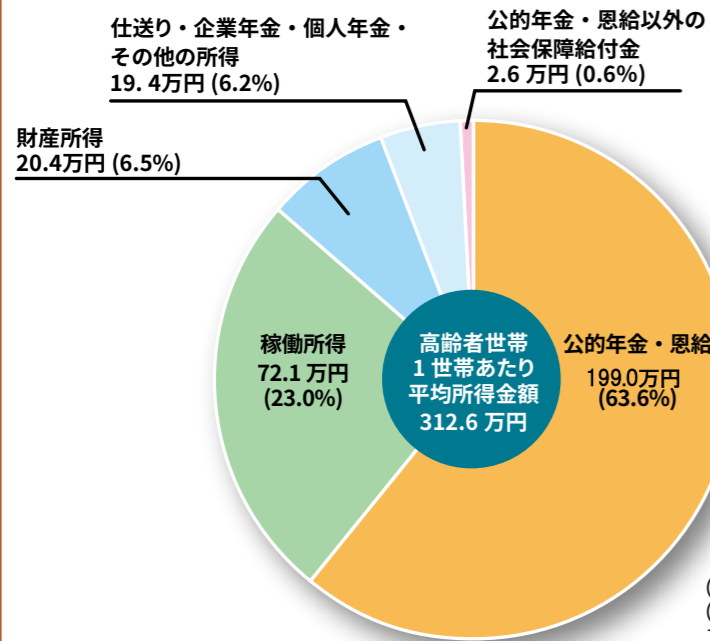


公的年金の意義

公的年金は多くの方の生活を支えています



年金は高齢者世帯の収入の6割

(資料)2019年国民生活基礎調査(厚生労働省)
(注)四捨五入による端数処理の関係で、100%にはなりません。

公的年金が地域経済を支える役割

家計消費の2割が年金の地域もあります

(対県民所得比 上位7県)

都道府県名(高齢化率)	対県民所得比	対家計最終消費支出比
島根県(33.6%)	18.2%	23.5%
鳥取県(31.0%)	17.5%	20.5%
秋田県(35.6%)	16.3%	18.9%
愛媛県(32.1%)	16.2%	19.3%
長崎県(31.3%)	16.0%	18.1%
高知県(34.2%)	15.8%	18.8%
奈良県(30.3%)	15.8%	20.6%

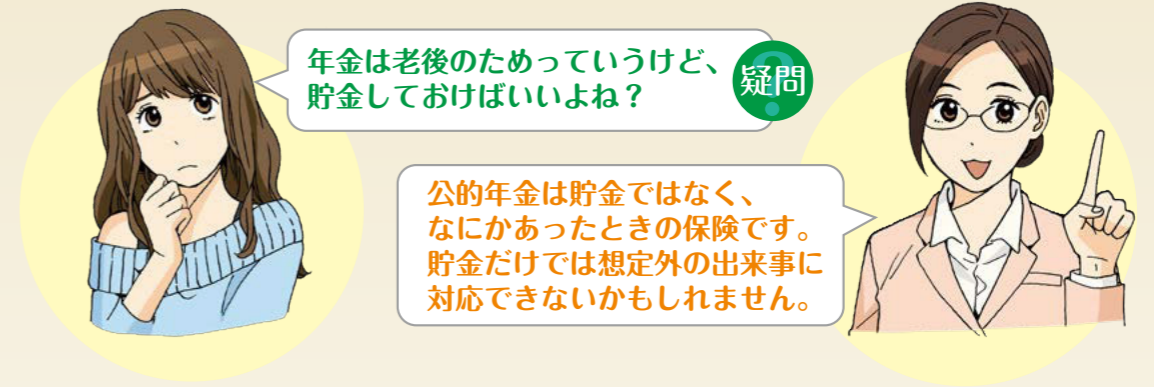
高齢化率：総務省「人口推計」(平成29年)
都道府県別年金総額：厚生労働省年金局「厚生年金保険・国民年金 事業年報」(平成27年度)をもとに作成
(厚生年金保険、国民年金及び福祉年金の受給者の年金総額)
県民所得・家計最終消費支出：内閣府「県民経済計算」(平成26年度)

いっしょに検証!公的年金

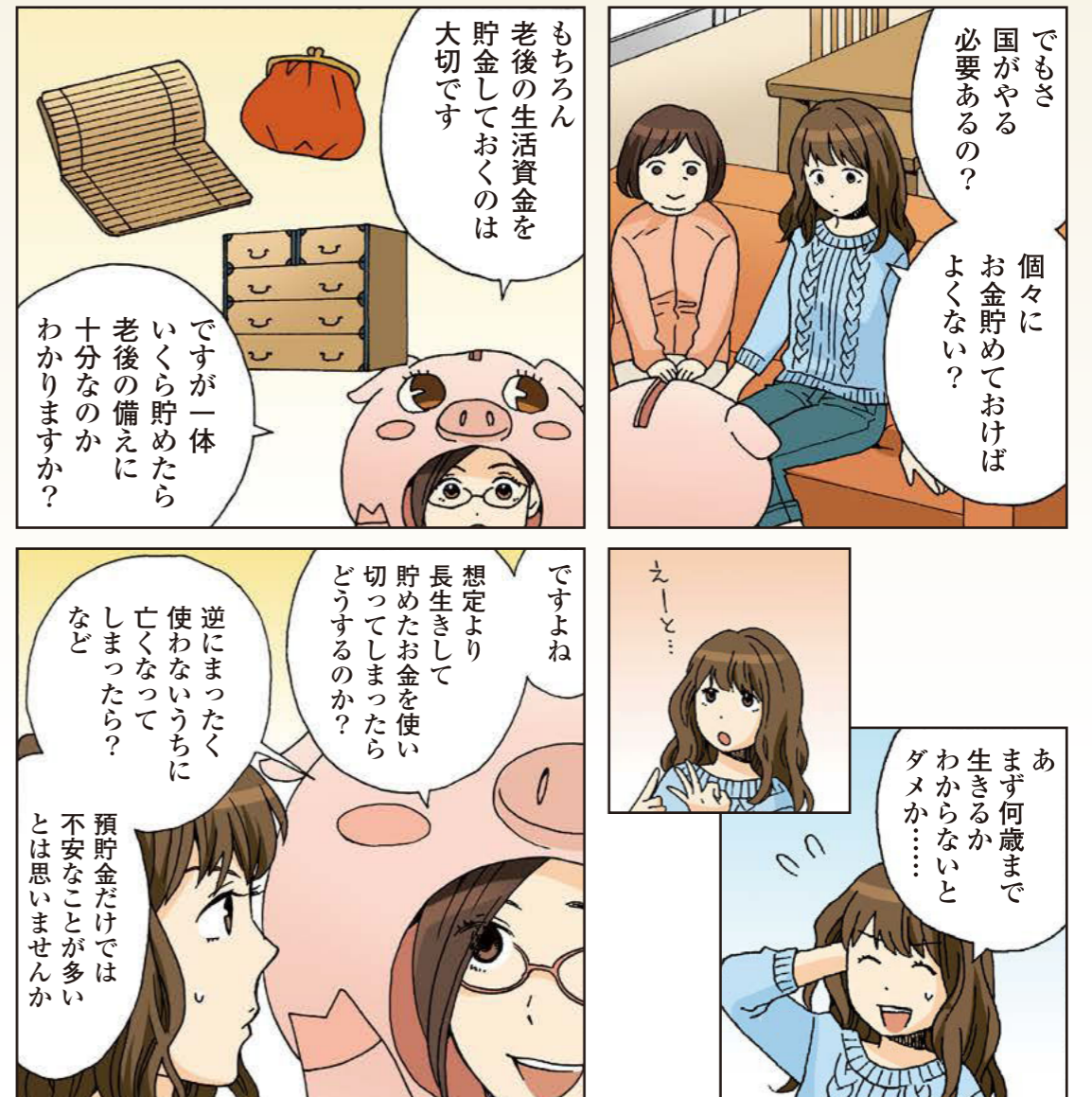
～財政検証結果から読み解く年金の将来～

詳しくは、マンガで分かりやすく解説したこちらのホームページをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/>



公的年金ってなんのためにあるのでしょうか。老後の備え? 実は、それだけではないのです。なぜ公的年金が必要なのか、その目的と意義をご説明します。



公的年金って、なんのためにあるの？

人生には、いろいろな「もしもの時」があります。病気やけが、死亡など……
 そうした「もしもの時」に備えるため、民間の生命保険や医療保険に加入したり、貯蓄をする方もたくさんいることでしょう。
 ですが、その「もしもの時」がいつ訪れるのか、どれだけの期間に及ぶのかは、誰にもわかりません。
 すべての人が、あらゆる事態を予測して準備することは困難なのです。
 すべての人がこうした事態に備えられるようにしたのが、公的年金です。

人生のリスク、想定外のリスクとは

高齢によって働けなくなること以外にも、なんらかの事情で働けなくなったり、それまでの収入がなくなってしまうことは、人生において大きなリスクです。
 公的年金では、以下のようなリスクに対応した保障を行っています。



老 齢

高齢で、働くことができなくなった

老齢基礎年金

65歳から終身給付を受けることができる年金です。普通、「年金」というとこの老齢年金を指します。

障 害

けがや病気などで障害を負って、働けなくなった

障害基礎年金

加入中、病気やけがなどで一定の障害を負った場合に支給されます。また、20歳前の障害にも対応しています。

死 亡

一家の大黒柱が亡くなってしまい、収入が得られなくなった

遺族基礎年金

年金受給者や被保険者が亡くなったとき、「子どものいる配偶者」か「子ども」が給付を受けられます。(子どもの年齢は原則18歳以下)

なにが違うの？公的年金と貯金

公的年金は、一般的に老後の生活資金として考えられていますが、広い意味での保険制度にあたります。老後に備えて個人で貯蓄した場合と比べて、以下のような特徴があります。

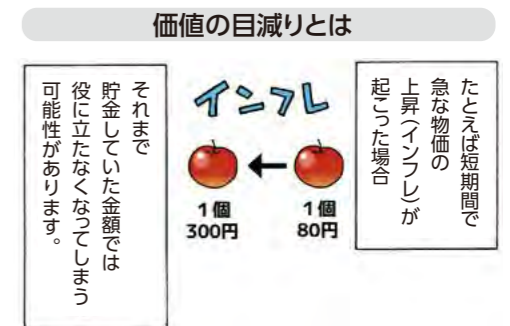


1 生涯にわたって受給できる

誰も、自分が何歳まで生きるか、死ぬまでにいくら必要なかはわかりません。そのため、貯金をしていても、生きている間に使い切ってしまうかもしれません。それに対して公的年金は、亡くなるまで受給できる仕組みです。長生きして貯金がなくなったらどうしよう……という心配をせず、安心して暮らしていけるのです。

2 物価変動や賃金上昇など、経済の変化に比較的強い

物価や賃金が上がると、それまでしてきた貯金の価値がなくなってしまう(価値が目減りする)かもしれません。公的年金は、そのときの物価や現役世代の賃金などに応じて、どのくらい給付されるかが決まります。そのため、物価が上がるインフレなどに比較的強いといわれています。



3 重度の障害を負った／一家の大黒柱が亡くなったときに対応できる

一家の大黒柱が、突然の事故や病気などで障害を負ってしまったり、亡くなるなどしたとき、小さな子供や配偶者はどうしたらいいでしょう。貯めてきたお金だけでは生活できない場合も考えられます。こうした事態に備えるため、公的年金は障害を負った方や遺族への保障も行っています。

